

【背景】重症下肢虚血(CLI)の創傷治癒には皮下組織レベルの血液循環(皮膚微小循環)の改善が重要である。当院ではPPI 施行時にレーザ血流計を用いてリアルタイムで皮下組織の血液循環量を測定し、皮膚微小循環をモニタリングしてきた。【目的】CLI へのPPI 症例を対象として、レーザ血流計による微小循環モニタリングの実際と有効性を報告する。【方法】(1)レーザ血流計はネクシス社製CDF-2000(2プローブ式)を選択した。(2)カテーテル室への入室後、症例の足背部と足底部にプローブを装着し血流測定を開始する。(3)PPI 手技終了後まで血流値を連続測定する。【結果】(1)CLI へのPPI 手技中に血流値が22 から16(ml/min/100g 組織)へ急激に低下した。直ちに血管造影を行い状況確認したところ、バルーン拡張に伴う血管解離のため急性下肢動脈閉塞を生じていた。(2)PPI 手技成功群における手技終了時の血流値は手技開始前の191%であり、不成功群では126%であった($p<0.05$)。(3)CLI 症例の膝下動脈3分枝(前脛骨動脈、後脛骨動脈、腓骨動脈)のうち、1枝のみ血行再建した群では手技終了時の血流値は手技開始前の159%であったのに対し、腓骨動脈を含む2枝再建群では233%であった($p<0.01$)。【結論】レーザ血流計による下肢血流モニタリングは、PPI 施行中における急性閉塞等の合併症の早期検出に有効である。また、PPI 手技による皮膚微小循環の改善の程度を定量評価できる。

評価1	評価2	評価3	採否
発表日時 月 日 (第 日)	セッション	会場	時 分～ 時 分

受付番号

演題番号